別紙２

自ら学び続ける教職員研修支援事業　活動報告書

グループ(学校)名　華フロ校内研修会（華陽フロンティア高等学校定時制課程）

テーマ　困難さを抱える生徒のサポート

取組のポイント・成果

取組の内容とポイント

６月５日（水）、７月３０日（火）、９月６日（金）、１１月２５日（月）、１月７日（火）に職員が集まって意見交換を行った。回毎に授業や生徒指導、愛着障がいをテーマとし、生徒へ対応するうえで困っていること、上手くいった方法などを話し合った。愛着障がいをテーマとした回では、『通常の学級で行う「愛着障がい」サポート』（明治図書）などのテキストを用い、理論についても取り上げたが、あくまで先生同士の話し合いを研修の中心とした。研修の際には、話を傾聴する、前向きな助言をするなどの話し合いのルールを提示して、職員同士で活発な意見交換ができるようにした。９月２７日（金）には、株式会社エスケイケイの藤本　丞氏を講師として招き「イマドキ世代の子どもたちの人間力を育む効果的な関わり方～愛着障害をからめて」という題目で講演会を開催した。講演会の前半では、高校生を含む若い世代について、心理面やコミュニケーションの面においてどのような特徴があるか、またどのように動機づけるべきかについての研修を行い、後半では、愛着障がいの要因や発達障がいとの違いについて基本的事項を学んだ後、愛着障がいの傾向を持つ生徒への対応についての研修を行った。本校の生徒の現状を研修講師に事前に伝えた上で、新たに作っていただいた講演であったので、本校の生徒に対応する術を具体的に学ぶことができた。１月７日（火）の研修では、講演会の内容を振り返りながら、その後の生徒対応における実践について意見交換を行った。

成果

９月２７日（金）の講演会で学んだ内容について、実践をしたかどうか、また実践してみての感想をアンケートとしてグループの先生に対して問うたところ、１月の時点で全員が実践したと回答していた。また、感想についても、「しっかり掃除をしている生徒に『ありがとう』と声をかけた。生徒はうれしそうに、『きちんとやっているよ』と答えてくれた」など、教員には具体的な実践が見られ、生徒には肯定的な反応が見られた。特に、愛着障がいの傾向のある生徒に対して、自己有用感が得られる対応をするという実践が多く見られ、１月の研修においても、本校の生徒に対して有益な対応方法であるので、今後も実践したいという意見が多く聞かれた。

今後の課題

今年度研修を行う中で、生徒対応について難しさを感じている職員が相当数いることを実感した。来年度についても、専門家を招いて理論を学ぶ機会を持ちつつ、先生同士の意見交換を基本とした研修を行い、優れた実践から学び合うことができるようにしたい。また、講演会を中心とした今年度の研修で得られた知見を、来年度の校内研修において参加者の先生に、研修主事研修において他校の先生に共有していきたい。